

開 議

○蒲生光男委員長 おはようございます。

これより会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成27年度長井市各会計予算に関する総括質疑

○蒲生光男委員長 それでは、13日の総括質疑に続き、続行いたします。

今泉春江委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位4番、議席番号4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 皆様、おはようございます。日本共産党の今泉春江でございます。よろしく願いいたします。本当に最後の最後に質問の場をいただきまして、感謝申し上げたいと思います。

それでは、早速質問に入ります。

私は12月議会の後、多くの市民の皆様とお会いいたしました。そして、市民の多くの方々は、どこへ行っても、どなたも今一番の市政の関心は道の駅でした。それは多額の予算が投じられ、本当に市民のためになるのか、市民が望んでいることなのか、自分たちの利益になるのか、市が活性化するのか、財政再建がやっとなって最

初にするのが道の駅なのか、さまざまな声が届けられました。しかし、このたび道の駅ではなく観光交流センターとなり、市民は、それは何、道の駅ではないのと、ますます疑問が深まるばかりです。そんな多くの市民の疑問や心配の声を市長にお尋ねします。市民の声として受けとめてお答えくださるようお願いいたします。

それでは、市長にお聞きします。

まず最初の質問です。観光交流センターとしたことでお客様は来るのでしょうか。道の駅だからこそお客様が来るのではないのでしょうか。いかがでしょうか、市長。

○蒲生光男委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 お答えいたします。

観光交流センターということでお客様は来るのか、道の駅だからこそ魅力があり、お客様が来るのではないかということですが、さきの一般質問でもお答えいたしました。長井市が目指す観光交流センターは、飯豊町のめざみの里や白鷹町のあゆ茶屋のように長井周辺の道の駅でございますけれども、こういった郊外型の施設完結型の道の駅とは異なる考え方でございます。しかしながら、こうした一般的な道の駅のイメージが先行してしまい、今回整備する観光交流センターの真の目的やその機能についてご理解いただいていないのではないかの思いから、都市再生整備計画のメニューである観光交流センターを整備すると再三申し上げてございます。

道の駅というような整備メニューはございませんので、これは例えば、ほかの飯豊町や白鷹町、あるいは今度米沢でも整備される2カ所目の道の駅というのは、それは道の駅をつくるということでの事業でしょうけれども、私ども長井市のほうでは、そういった単独の事業ではなくて、あくまでも補助事業のメニューを使ってパッケージ事業として今回観光交流センターと、市民の生活の向上のための生活環境整備を図る

ということでの事業でございまして、その事業メニューが観光交流センターということでございますので、それは今泉委員にもう何十回も申し上げてると思っています。

観光と交流を目的とする施設ですので、そこにはトイレや休憩施設、観光案内所、地場産品をPRする特産品販売コーナー、農産物直売コーナーを設置することとなります。これらの施設設備のうちトイレや休憩施設、観光案内所については、いわゆる道の駅に必要な施設整備とされておりますので、それらを活用して認知度を上げるために国土交通省の所管する道の駅の登録を考えており、道の駅に登録すれば、委員おっしゃるとおり、より多くの皆様においでいただける施設になると考えております。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 市長のおっしゃることは何回も確かにご答弁いただきました。しかし、市長は市民にも私たちにも、ずっとかわと道の駅を強調なさったのではないのでしょうか。確かに今、市長がおっしゃったように観光交流センターの中にその道の駅を登録して、さまざまな産直販売所とかそういうものを設けるとおっしゃいましたけども、市長は今も申し上げたように、ずっとかわと道の駅を強調しておられました。

まず、2012年9月、市民にお示しになりました「あやめRepo」にも、町なかのにぎわいづくりと中心市街地活性化は観光交流の拠点となるかわと道の駅と、ここで、かわと道の駅も強調され、市民に説明しております。市民とのミーティングというか、その中でも市長はかわと道の駅ということを大きく強調されておりました。

ですから、この観光交流センター、確かに観光交流センターということでよろしいんですけども、その道の駅というものをPRなさらないければ、お客様はいらっしやらないんじゃない

かと私は思います。

最近、全国の道の駅がいろいろ話題になっております。山形県内でも、道の駅をめぐるツアーなどが企画販売されて、チラシが新聞などに折り込まれております。それぞれの道の駅でさまざまな特産品や名物、それにおいしいものが味わえる場所、それらがPRされております。観光客はそういうものに興味を持ち、そしてその道の駅での、もちろん長井市もございましたけれども、魅力的な物語のようなテーマ、そういうものもあり、それが必要であり、そこで観光交流センター、その目的が達成されるのではないのでしょうか。市長、いかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 かわと道の駅というのは、そこに仮称とか書いてないですか。私は観光交流センター、仮称かわと道の駅という言い方をしてるんですね。そんなに名称にこだわるんですしたら、正確にそこは見えていただきたいと。

そして、名称はどうでもいいと思うんですよね。いわゆる道の駅っていうのは、市民の皆さんの一般的な見方ですと、郊外型の、そこに行くのと地元の名産品やあるいはおいしい食べ物とか、あとトイレと大きい休憩所があってレストランがあると、そういうイメージだと思うんですが、最初から道の駅という言い方はしてなくて、かわと道の駅ってずっと言ってます。

それはなぜかという、長井ってのは最上川の舟運で栄えた町なので、それと国道の並行しているそのところに、舟運の歴史もわかる、そういった施設を一つの、ほかの地域にはない独自のものとして、長井はかわと道の駅という考え方でやろうと。しかし、事業メニューは観光交流センターですよということはずっと書いてると思うんですが、議会のほうにもいろんな資料を。

ですから、道の駅だったらいい、観光交流センターって何だっていう言い方は、むしろ今泉

委員はよくご存じなはずですから、市民の皆様から聞かれたときは、事業名は観光交流センターなんだと、ただ道の駅のようなものですよ、考え方は同じだと思うんですよ。

ですから、言葉でどちらが正式名称だとかそういうことよりも、長井の場合は郊外型じゃなくて町なかに今回の事業は置かざるを得ないわけですけども、それによって単なる、そこで完結するんじゃないなくて、町に観光交流客が入っていただけるようなそういう玄関口、へそにしようということであり、ただし、国土交通省の道の駅にも登録できますよと。そうしますと長井の方以外の方は知らないわけですよ、長井の道の駅ってのは観光交流センターで、考え方はかわと道の駅ということで作られたということはわからないわけですから、そういった一般的な道の駅としても登録できるので、それを完成した後は国に申請しようということになりますので、道の駅って言うたじゃないかと、観光交流センターって何だっていうのは、ちょっと私には理解できません。同じことだと思っておりますので、そこはご理解いただきたいと思っております。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 私は名前にこだわってるわけではございません。ただ、多くの方に長井に観光客が来てもらうためには、観光交流センター、もちろん観光交流センターですから、そこで観光客をご案内すると、長井をPRするということは必要だと思います。しかし、観光交流センターというものを前面に出しますと、道の駅というのが隠れてしまうような、もちろん道の駅の機能も国土交通省に登録申請するとおっしゃってますから、その機能も持つと何回もおっしゃっておりますので、もちろんそういうものも期待するところですけども、やはり観光交流センターというのが前面に出ると、何かないと。私は観光交流センターの中に道の駅の機能

も持ってますよと、そういうふうに説明しておりますけども、市民は観光交流センターと、それ何というようなことで疑問を持つわけです。

それで、こないだの一般質問でもそうでしたけども、観光交流センターでは商業活動というものはできないというようなことをおっしゃってますよね。課長さんとか市長のほうからも、そのような意味合いのことをおっしゃってます。それであれば、観光交流センターというものを前面に出すんでは商業活動を余り大っぴらにとか、商業活動をしないと、そこで利益は上げないというようなことでは、何のための観光交流センター、道の駅も登録して、何のためにするんですかと。あそこで頑張って収益を上げて、そして市民にも還元できるようなそういう施設が望ましいんじゃないかということでお話を申し上げてるんです。

ですから、観光交流センターというものを名前だけでなく前面に押し出して、そんなに商業活動しませんよなんていうことを議会で申し上げてるっていうのはおかしいんじゃないかということで質問してるわけなんですけど、いかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 今泉委員、この質問項目の(4)の内容に今触れられておりますけれども、(1)の話をまず最初は淡々と質問していただいて、いや、行ったり来たりしますと、なかなかわかりにくくなるものですから、そのようにお願いいたします。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 一般質問で答弁させていただいた内容っていうのは、これは例えば国の補助事業とか、あるいは私どもも行政でつくる施設っていうのは、基本的に収益を目的とする施設は、商業施設はつukれないわけです。それは私の考え違いでないと思っておりますけども、その観光交流センターで何で収益を目指さないんだと、こうおっしゃるわけですけども、だとしたら、収益

を目指すのであれば、企業会計になるわけですよ。

例えば学習プラザがあります。あそこにプールがありますけれども、そのプールでなぜもうけないんですかということと同じなんですよね。あそこの施設の目的は、その施設を運営することで利益を上げることが目的ではなくて、あそこの施設はこれほとんど、赤字にならないように心がけなければならないと。しかし、目的は産業振興で、例えば農産物の展示コーナーということで買っただけのわけですから、あとは地場の特産品の展示コーナーということで、いらしたお客様に買っただけの。お店じゃないんですよ、基本的に。ここを勘違いされると困るんですよ。ですから、あくまでも地元の農家であったり商工業者であったり、その方たちに利益を上げていただくと。でも、市でつくった施設は、そこで利益を上げることが目的とはしないと。しかし、赤字になってもだめだということなんですよ。

ですから、学習プラザの例えばプール、あそこで高い使用料をいただいて利益を上げるという目的ではないわけですよ。例えばスイミングだとしたら、プールだとしたら、そこで健康増進を図っていただく、あるいはその水泳技術の向上とかそういったことを目的とする。ただし使用料として応分のご負担をいただきたい。そして、そこで黒字を目的とした施設ではないわけですよ。それと考え方は私は同じだと思うんですよ。

ですから、利益を上げるのであれば民間がやればいいわけですよ。我々行政はもっと違うことを目的としてると。ですから、観光交流というのは、長井に来られた方に長井の観光案内の玄関口として、そしてそこから市内の例えば飲食コーナーなども、レストランなどは、もうこれはもうけないと。基本的にですよ。ここは飲食コーナーはつくりますけども。やっぱり町

なかに、おそばだったら、こういうおいしいお店がいっぱいあるんだと、馬肉ラーメンってのは、こういうのがあるんだよと、そういったことを紹介するのが観光交流センターなんですよ。

ですから、私は今泉委員がおっしゃるのはちょっと違うんじゃないかと。これ何度も申し上げてるんですよ。ですから、そここのところは、なぜ行政がこの事業をするのかという目的を履き違えないでいただきたいなど、そのように私は考えてます。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 何度も確かにご説明いただいて、お答えいただいております。理解できず申しわけございません。ですけども、何度説明していただいても、理解できないものは理解できないということで質問を申し上げております。

今プールなどの例をとって説明していただきましたが、こういうプールなどの教育文化の施設とはまた違うわけですので、そこで利益がどうのこうの言われても、ちょっと違う話でないかなと思っております。

それでは、1番目の質問の最後にちょっと一言申し上げます。先日、商工会議所から要望書が届いております。その中で、商工会議所の交流人口拡大のため、地域活性化の施策ということで、かわと道の駅の整備充実という要望書が届いております。このことについては、市長はどのようにお考えでしょうか。

いや、何もあれでなければよろしいので。今は関連の質問ですから。

○蒲生光男委員長 今泉委員ね、質問項目に沿ってご質問をお願いいたします。

○4番 今泉春江委員 はい、わかりました。じゃあ、今の結構でございます。そこも後で市長、よく見ていただいて、会議所の声ということでお願いいたします。

それでは、次の質問に参ります。次の質問で

す。一般質問の中でも問題になりましたけど、大幅な予算オーバー、まず金額的に1億8,000万円などと予算がオーバーになりました。そのことによって市長は、大枠の中での予算は変更ないと、その中での予算のあれが変わっただけだというような説明をいただきました。そして、その中で、当初計画していたこの観光交流センター、道の駅というものの建物など、いろんな計画されておりましたが、当初の計画からは大きく縮小され、基幹事業として市長はおっしゃってますので、その目的に合うようなものができるのでしょうか。目的に合っているのでしょうかということをご質問申し上げたいと思います。市長、いかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 確かに予算のほうは1億8,000万円ほどオーバーしてしまい、これは幾ら概算とはいえ、少し実施設計との間に乖離があり過ぎたということでおわびを申し上げたいと思います。

ただ、内容的にはほとんど変わってございません。最大の床面積で当初申し上げておりましたが、実施設計を組む際に、いわゆる補助をいただく国、あるいはその仲介の県と協議をしたところ、例えばいわゆる農産物の直売所の部分とか、あと地元の特産品を扱う物産館のところ、国の名称ではそういう名称は基本的にはあり得ないと。これ先ほどから申し上げますように、利益を上げることが目的ではありませんので展示コーナーと、こういうふうになるわけですね。

例えば話で恐縮ですが、地場産業振興センターの物産館も、あれ物産館っていう名称は当初使っておりませんでした。特産品展示コーナーです。ただし、それらがある程度年数を経過して物産館という言い方をできるようになったと。

ですから、当初はやっぱり補助メニューでやっておりますので、そういった名称の使い方をしておりますが、その中で協議してる中で少し

面積を、これ大き過ぎませんか。目的は観光交流センターですから、販売だけが目的ではないので、その辺のところをもう少し縮小すべきたか、そういった協議などをして出た中身がご示した内容でございます。ただし、私どもとしても、当初の目的は観光交流ということで、それなりに単なる、そこにいけば市内の案内所みたいな、そういう役割だけではなくて、地元の農産物や特産品とか、あるいは飲食もできるそういったものの要素も入れなきゃいけないということで最終的にああいふ面積になっておりますが、基本的には機能が失われているということではないと理解しております。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 わかりました。

それでは、ちょっと今と関連しますけど、3番の道の駅として登録申請すると先ほどもおっしゃってございました。道の駅として登録申請するということであれば、担当のほうからいただいた資料を見ますと、トイレとか休憩場所とか、道の駅の機能も持ちますので、大型バスなども来るわけですね。そしてトイレの数とか休憩場所とか、ちょっと見ますと十分ではないんじゃないかなというような印象を受けますけれども、そこはどうでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 道の駅、全国に1,000以上あるわけですが、その中で私どもの今回つくる観光交流センター、かわと道の駅ですね、この規模というのは割と標準より若干大きいタイプだと見ております。敷地面積が1万2,000平米ぐらいというのは、まあ1万平米以上ってのは半分以下ですので、そういった意味では、決して小さい、通常でいう道の駅ではないと。

あと観光バスも8台とめられます。6台でしただけ、7台。あと普通の乗用車のほうが100台ぐらいですか。ですから、決して小さい駐車場のスペースではないと思っております。

例えば、めぎみの里というのは大きいですね。それから、あゆ茶屋もかなり広い駐車場ございますが、例えば小国の道の駅ですね、それから米沢の田沢にある道の駅とか、もう全然小さいです。あと287号線の大江の道の駅なんかもう小さいです。ですから、そこからいけば決して小さくはない、しかし大きくもないと。長井の規模に合ったスペースっていいですか、駐車スペースじゃないかなと考えているところです。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 じゃあ、そのように私も理解いたします。

それでは、次に参ります。この道の駅というか観光交流センターは中心市街地活性化のためとされております。そこにつなげるための観光交流センターの役割というものはあるのでしょうか。具体的に教えていただきたいと思っております。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 およそ500の商店が市内では550億円の年間商品販売額を数えるわけでございますけれども、観光交流センターの目標は、交流人口にとっての一時的なランドマーク、つまり玄関口でありへそであることで、ここを起点として桜回廊めぐりやフットパスウォークや町歩き、そばやラーメンなどの食べ歩き、町の中で行われるさまざまな催しに交流人口を誘導しようと、そういう玄関口という考え方でその中心市街地の活性化の役割を担おうというふうに考えています。

これによりまして、町の中の商店が繁盛し、加えて町の中を新たな新規創業が可能な場所にしていくということが観光交流センターの目的です。最終的にはコンパクトな都市機能の形成に寄与させていきたいと考えておりますが、平成28年に発足する予定の観光プラットフォームをこの観光交流センター、29年に開業するとしたら、そこにその機能を持たせて、そこに行けば

ワンストップでいろんなところにご案内できる、そういう機能もこの観光交流センターにきちんと担わせていこうということで、中心市街地を活性化させるという考え方でおります。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 観光交流センターとして中心市街地活性化のために十分その機能を発揮していただきたいと強く思います。市長がいろいろ考えてらっしゃいますから、そのような方向で進んでいるのだと理解いたします。

そんな中で効果は具体的にどうですかというようなことを書いております。今、市長から500の商店街とフットパス、桜回廊、町なか歩きとか、いろいろ説明をいただきました。実際、経済効果というようなものはどのようにお考えでしょうか。また、効果ということで、雇用などもどのようにお考えでしょうか。ちょっとお聞きいたします。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 経済効果ということでございますが、観光交流センターの目的は先ほどから申し上げてるとおりなんです、売り上げとかその販売、雇用ということについては、以前からほくどう総研のほうからの報告書は委員もお持ちのことだと思いますけれども、それが第三者から見た客観的な評価であります。

私としては、交流人口を迎える道の駅としての機能もちろんあるわけですけども、おらんだ市場菜なポートと地場産センターの物産館の売り上げをベースにして大体2億7,000万円ほどという、現在は合わせて2億円ほどの売り上げなんですけども、2つを一緒にすることによって、その相乗効果として、あそこ自体の売り上げは2億7,000万円ぐらいを目標にしております。

売り上げが2億7,000万円ということで、それで利益をどうのこうのというよりも、地元でつくられた農産物をいろんな方にお求めいただ

く、あるいは地元の特産品を観光客に買っていただくということ、そのお客様がやっぱり食事で町なかに入ってもらったり、お土産をいろいろ買ってもらうということ、さらにその効果が高まるということだと思っております。

具体的な数字については、その経済波及効果ですか、今は持ち合わせておりませんが、雇用については77人ほどの、間接的な雇用も含めてということでの当時の調査の結果だったというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 今ご答弁いただきました雇用とか経済効果なども、ほくとう総研の調査で私たちにも示されております。それは十分承知するところですけども、あの調査を見ますと、今いろいろ市長がおっしゃった観光交流センターでの効果というものにその数字がつながっていくのでしょうかと、非常に疑問でございます。雇用なども77人としてますけども、現場の雇用ではなくて、1次産業、6次産業といろんな皆さんの雇用の波及が77人ということを示されておりました。

そんな中で、そのかわと道の駅、観光交流センターで雇用はどのぐらい見込んでおりますかというようなことを、私は市長に経済効果はどうですかというようなことも何度も今までお聞きいたしました。その中で市長は私に、24年の6月議会で雇用の質問をいたしましたら、数十人単位ではなく、数百人、1,000人単位の雇用を目指すと私にお話なされました。私は本当にそんなにあるのかと、ちょっとそれはおかしい話だなと思いましたが、期待するところは本当にありました。まあ1,000人なんていうことはないでしょうけども、大きな雇用がそこで生まれ、そして経済効果も出るんだと、そういうふうに市長がおっしゃってますので、大きくそこは期待したところでしたけども、実際、予算も減額になったり、いろいろ今の状況を見

ますと、この前にお答えになったのとは随分差が、もちろんほくとう総研で調査報告なされた数字にも大きくこの違いがございます。そのところはいかがでしょうか、市長。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 本当に私が観光交流センターで1,000人以上の雇用を目指すって言ったんでしょうか。言ってますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 24年の6月議会で。私、議事録拝見いたしましたので、雇用は数十人単位でなく数百人、1,000人単位の雇用を目指すものと思うということを市長はおっしゃっております。後で確認していただきたいと思います。

私はこの答弁はまるきり、おかしいですね、信用では。これをそのままとは思ってはおりませんが、やはりそれを目指すようなものができるといいなということで、私はそのときは理解したところでございます。そこは確認していただきたいと思います。

○蒲生光男委員長 委員長の許可を得てお互いやりとりしてくださるようお願いいたします。淡々と質問してください。

○4番 今泉春江委員 はい、それを申し上げます。後でご確認いただきたいと思います。

そこで随分違いがあるのだなということを申し上げます。

それでは、そういうことも含めまして、何かこの計画は当初よりも随分違った方向へ来てるのかなと感じたところでした。

それでは、最後の質問に参ります。最後に、市長は産業振興と何回も私の質問にも、このかわと道の駅、観光交流センターは産業振興のためということでお話ししてくださいました。産業振興ということでありましたら、まず産業というものはたくさんありますよね。1次産業、農業、2次産業、食品加工、3次、流通・販売、

それで6次、直接販売したりレストラン経営など、こういう産業とさまざまな産業があるわけですね。そして、市長は農業振興、農業委員会からも、それで進めてくださいという提言書をいただいているというようなことも答弁なさっております。ですから、この産業振興というのがどのぐらい見込まれるのかと。先ほどの経済波及効果というようなものも関連しますけれども、どのように見込まれるのか、具体的にお話しただけだと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 観光交流センターでは、具体的に農業をこのぐらい収入を上げようとか、食品加工業の皆さんの収入をこのぐらい上げようとか、そういった性格のものではないというふうに思ってます。

24年の6月議会で雇用を100人、1,000人単位でふやしたいというような私が答弁したということは、多分観光交流センターだけではなくて産業振興全般では申し上げておと思いますが、かわと道の駅といいますかね、それによって1,000人単位の雇用がふえるということは残念ながら、そんなことであれば素晴らしいことだと思いますし、私はそこまでは考えておりません。

もし私がそういうふうに答えてるとしたらおわび申し上げますが、産業振興としてこれを考えてると言ったことは、まず農産物の直売所とか、あるいは特産品の販売コーナーとか、あるいは地元の物産の販売コーナーがあると、それはいいものがお客様、たまたまいらした観光客の皆さんの心を捉えるといいますかね、これはすごいなということで売上げが上げれば農業者の皆さんの収入がふえるという考え方で申し上げてるわけですし、ですから、まずは農業あるいは食品加工の皆さん、あとはお土産品を扱っている皆さん、そういった方々の収入がふえるような産業振興を図りたいと、それと先ほど、繰

り返しになりますけれども、中心市街地のほうにお客様をうまく誘導できれば、そういった方々の、飲食業であったりさまざまな関連するような商売の方々の売上げ増にもつながるんじゃないかということでもあります。

したがって、農業委員会やあるいはJAおきたまさんなんかからも要望があるのは、ぜひそういった観光交流客の方に買ってもらえるような場所を早くつくってほしいと、それによって農業振興とかに、あるいは6次産業化に寄与するんじゃないかということからのご要望だと考えております。

○蒲生光男委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 農業や市内の中心商店街の方々に利益が出るようにということで、そういうふうにご答弁なさったんだと思います。やはり収入がふえるように本当にしていただきたいと思います。それであれば、やはりその観光交流センター、道の駅などでも収益増を目指す努力が私は必要ではないかなと。確かに中心市街地活性化のために、お土産は、じゃあ市内行ってくださいということではなくて、あそこでも収益が上がるような努力が必要でないかなと思いますけれども、商業活動というようなことでいろいろ説明なさってますから、そこをどういうふうに私が理解したらいいか、ちょっと悩むところがございますが、大きな収入、市内の商店街、飲食店、さまざまのところへ大きな収入が期待されるということを私も希望するところでございます。

まず、その観光交流センターでは大きな市民の多額の血税がつぎ込まれるわけですね。ですから、市民はその観光交流センター、かわと道の駅ということですのでごく疑問を抱いているわけなんです。

そんな中、昨年市長選挙が終わりまして、12月に大雨のときがありました。勤労センターへ参りました。そうすると体育館に雨漏りが、

前から雨漏りはあるんですけど、雨漏りで床がぬれておりました。そうすると、その中で体育館を使用の方が、道の駅よりも、まずこの雨漏りだよねって。雨漏り直してほしいよねと、市民は本当に率直に、まずその疑問を私にはないですけども、ひとり言のように皆さんおっしゃってました。私は本当にこの言葉を聞いて、いや、返す言葉ありませんでした。私は何て、いや、私の力のなさだなとすごくそこで責任を感じました。

この道の駅というのが最終的には10何億もかかるわけですので、やはりそこで本当に市民が希望してるというか切望してる、そういうものになってるのかなと。市民の願いに応える施設になっていくのかなと、強くそこで感じたところでした。

そんな市民の単純な願いというか疑問、それは市長、どのようにお考えでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 既存の公共施設で例えば雨漏りがあったということですので、それは非常にまずい状況ですね。すぐ直さなきゃいけないと思います。ですから、それはそれで大切なことです。市民の皆さんがスポーツを楽しんだり文化芸術に親しんだり、そういったことに必要なお金も、これももちろんきちんと対応しなきゃいけないので、それはそれで大切だと思います。

かといって観光交流センターが要らないかっていうことじゃなくて、それはそれで、これだけ経済が低迷して、若い人たちが残念ながら収入が低くて、あるいは仕事がなく長井を離れるということが多いわけですから、そういった意味では産業振興も重要だと思いますし、そういった福祉的な施設の整備も必要だと思います。

少なくとも雨漏りをしているということであれば、私は知りませんでしたけども、すぐ直しますよ。それは今泉議員の力が足りないとかと

いう問題ではなくて、それはきちんとおっしゃっていただければ、これ雨漏りを放置するなんてのは基本的にあり得ない話です。ですから、私は初めてお聞きしましたけども、それはそれで大切です。そちらの対応することも。そちらだけが大切で産業振興は大切じゃないという問題ではないと思いますので、ぜひそういった場合は、今泉議員が力がないなんてとんでもない話で、大変な力があるわけですから、市民の代表としてそういったことを感じられましたら、ぜひ担当課に言っていただければ、雨漏りしてスポーツ、体育ができないなんていう状況を放置しておくこと自体が間違っておりますので、それは場合によっては修理終わるまでちょっと我慢してくださいって話はあったとしても、それをそのまま放置して、そのお金がもったいないから何もしないと、ただ観光交流センターはしなきゃいけないんだと、そんな話は全く違うと思うんですよ。それも大切だし、こっちも大切だということで、そこはご理解いただきたいと思います。

○蒲生光男委員長 この場は質疑の場ですので、ご意見は後刻、改めて述べていただくようお願いいたします。

4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 はい、確かに道の駅と雨漏りは別問題です。

今、市長が答弁してくださいましたから、ちょっとそのことに触れますけども、この雨漏りは何度も申し上げておりました。そして去年、その調査も20万円でしたか30万円でしたか、かけて調査もしましたけども、原因はわからないというような報告を受けました。しかし、市民はお金を出して体育館を使用してるわけですから、やはり市民がもしもけがでもなさったら大変なわけですから、そこで私が申し上げたわけです。市民は道の駅と雨漏りと、その関係はないわけですから、でも市民の本当に単純な率直

なその考えということで今、雨漏りと道の駅のことを申し上げました。そこを考えていただきたいと思います。

それでは、予算総括質疑ですから、淡々と通告どおりに質問を申し上げたところでした。私は、この道の駅という、観光交流センターというこのことについて4年間、本当にいろいろと市民の声を聞き、私なりにいろいろ考え、調査し、質問させていただきました。なかなか私の考えやなんかは理解していただけなく、しかしいろんな意味でいろいろ、その中で進める中でも改善していただいたような気はいたしますけれども、やはり何としてもこの道の駅というものは最後の最後まで私の理解するところまではいきません。やはり最後まで私は見直しということを申し上げたいと思います。

今、申し上げたように、一般質問でも申し上げましたが、消費税の増税、それから社会保障、年金、介護、医療など本当に改悪され、農業なども破壊され、TPP、原発再稼働、集团的自衛権などで戦争への危険と、市民は本当に今、厳しい状況に置かれております。こういう市民の厳しい現実を見ると、絶望というか本当に絶望を希望に変える市政が今、長井市に求められてるのではないかと思います。失礼な言い方ですけども、おごることなく、少数意見にも耳を傾けていただき、弱者、声を出すことのできない、そういう方たちのためにも手を差し伸べていただき……。

○蒲生光男委員長 今泉委員、ご意見は後ほどお願いします。

○4番 今泉春江委員 これで質問というか、最後にいたします。

安心して幸せに暮らせる長井市政を実現することを願って、私の最後の質問といたします。大変最後までご協力いただき、ありがとうございます。これで質問を終わります。

(「委員長、議事進行」と呼ぶ者あり)

○蒲生光男委員長 14番、高橋孝夫委員。

○14番 高橋孝夫委員 ちょっと委員長が言われた総括質疑における意見を言うなという話は、私は当たらないと思います。質疑をして、きょうは、ここ予算委員会の場合ですから、討論はしない。討論は本会議でやってくださいって言い方はわかる。わかるけど、総括質疑の中で意見言うなっていうのは、ちょっと私ないと思うので、そこは訂正してもらいたいと思います。

○蒲生光男委員長 意見を全く許可してないわけじゃありません。しかしながら、通告内容から大きくそれる意見は、それはちょっと違うんじゃないかということで私は申し上げているのでありまして、そういう意味です。意見を全く許可しないなんていうことは今までもしてませんし、許可をしますし、ただやっぱりその範囲の問題ですよ。だから、質問項目から大きくそれるということは好ましくありませんので、それは注意していただきたいという注意喚起の意味で申し上げましたので、ご理解いただければありがたいと思います。よろしいでしょうか。

○14番 高橋孝夫委員 わかりました。

○4番 今泉春江委員 ありがとうございます。

○蒲生光男委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから各会計予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いをいたします。

議案第2号 平成27年度長井市一般会計予算についての質疑

○蒲生光男委員長 それでは、議案第2号 平成27年度長井市一般会計予算の1件について、歳入から順次質疑を行います。

まず、1款市税から12款使用料及び手数料に